

Jazz Interview vol.31

横浜発の歌って踊れる メロディアス・インストバンド bohemianvoodoo

2008年に結成。東京・神奈川を中心にジャズシーンにとどまらず、ヒップホップ、R&B等、数々のイベントに出演。2011年には地元「モーション・ブルー・ヨコハマ」でワンマンライブを実現させ、250名を超える観客を動員し超満員礼止め～初登場にしてモーション・ブルー歴代観客動員記録に名を連ねた注目のバンド=ボヘミアンブードゥーのメンバーから、bashiry (g) と木村イオリ (p, key) に2年ぶりの新作『SCENES』のこと、バンドのこと、ジャズとの出会いや音楽以外の趣味まで、貴重な話の数々を語ってもらった。

【2012年11月22日 @RESPEKT 取材&文：加瀬正之
取材協力：トゥルースターエンターテイメント】



写真提供：トゥルースターエンターテイメント

2年ぶりの新作『SCENES』は、過去の作品を含め、最多の13曲入りですね。

木村イオリ (以下 **IK**)：今回はどうしてもフル・アルバムを出してみたくて。1回自分たちのアイデアを全部詰め込んだアルバムを作りたいという思いがありましたね。レコーディングも良い環境でできました。ヴァンテージのマイクを使ったり、楽器関連もヴァンテージのフェンダーローズとかウーリッツァー、 Hammond、クラヴィネットや CP80 等、贅沢な使い方でしたわ。

bashiry (以下 **B**)：力を込めて1枚作るにはどうしたらいいか、何をコンセプトにしようかなあと思った時に、出し惜しみしたらダメだなと思ったんです。長く聴いてもらえるものを作りたいかったですよね。自信があるものを作れたら1年でも2年でもPRできるし、長く聴いてもらうには持っているものを全て入れてみようっていうことで、アルバムに全部入れちゃったんです。だから、今はこれ以上の曲がないっていうのが正直な所です (笑)。

1曲目「Adria Blue」はプロモーション・ビデオも話題ですね。

B：プロモーション・ビデオは僕の友人に頼んで撮ってもらいました。コンセプトは映画のワンシーンで、演奏するシーンがあって、僕らは映画館で自分たちの演奏シーンを見ているんですけど、テレビで見ている人もいたり、いろんな切り取り方があっていいなと思ったんです。

IK：あの曲は僕と bashiry 君と一緒に作った曲で、最初から推し曲にするつもりでした。2曲目の「Spirit of Liberty」とどっちを先に持ってくるか話し合いましたけど、僕としては「Adria Blue」でしたわ。今回のアルバムのコンセプトである“海”らしさがより色濃く表現できたと思うので。

B：あとは1曲目っていうのはアルバムの看板なんで、4人だけの演奏を看板にしたかったというのはありますね。ホーンアレンジも沢山入れましたが、bohemianvoodoo は4人バンドなので。

様々な景色を収めた他の収録曲についても教えてください。

IK：新しく書いた曲もあれば、これまでライブでやっていたものも多いですね。「F.O.G」は結成した頃からライブでやっている曲ですし、「Double Sunrise」は前回のアルバムに入れられなかった曲です。「Bird Inn」は仲の良い13souls 山内洋介くんのライブのサウンドを聴いて、彼のようなリゾートなイメージの曲を書きたい、と思って書いた曲です。それから「Precious Coast」は僕の地元の子森をイメージした曲、「Todo Wara」は bashiry 君が旅行した北海道をイメージした曲ですね。タイトルを『SCENES』にしたのは、僕らが見てきたいくつもの“景色たち”を、アルバムを通して感じてもらいたいと思ったからです。「Scenes - Interlude-」を挟んで前の方が「海の章」、「Scenes

- Interlude-」より後が「港街の章」というイメージです。
B：アルバムの最後の曲「Dear Old Piano」も、曲の最後だけバンドが出てくるようなアレンジもやってみてもいいかなと思って。ああいう曲もあると前作からどういう風に変まっているのかが見えやすいですからね。

bohemianvoodoo というバンド名の由来について聞かせて下さい。

B：2文字付けたくて、いろいろ試行錯誤していたんですけど、まず、候補になる単語がいろいろあって、「bohemian (ボヘミアン)」と「voodoo (ブードゥー)」を並べた時に、英語の小文字で書くと鳥が羽を広げたような感じに見えて、これいいなと思ったんです。「bohemian」には「自由な」という意味を持たせて、ジャンルにこだわらず自由に好きなように、聴いている人も好きなようにという意味もあるし、あと、僕はシルヴァン・リュックというジブシーのギタリストが好きなんですけど、彼に凄く影響されて、そういうジブシーサウンドみたいなものを単語にするとか何だろうとも思ったんです。また、僕はアフガニスタンと日本のハーフで、それも多分ちょっと表したかったんです。「voodoo」には踊る、音楽を聴いて笑顔になるとかそういう喜びのようなものを表したいと思ったんです。後付けなんですけど、結構しっくりきたんで、そういうコンセプトで付けました。

bohemianvoodoo のジャンルについてどう思われますか？

B：僕は曲を書いている時に歌にも歌でもありたいと思っています。歌が持っている高揚感というか、僕は歌詞がないからそれをその分メロディに乗せたいっていうのはありますね。そういう意味でポップスみたいな捉えられたいっていうのはありますけど (笑)。ジャンルにこだわっていないということはないですね。

IK：そう、メロディーを大切に曲を作る以上、歌心は大切にしていますね。この間新潟でラジオに出た時に「ギターとピアノのデュエットなんですかね？」と言われて、確かにそうかなって思いました。bashiry 君がメロディ弾いて、僕がバックアップしたり、僕がメロディ弾いて、bashiry 君がバックアップしたりという。「Adria Blue」でもそういうギターとピアノのデュエット感みたいなものが出ていますし、ライブでもそこが楽しみの一つになっているとは思います。

bohemianvoodoo 以外での活動について聞かせて下さい。

IK：他のアーティストのライブサポートや、レコーディングサポートもやっています。

B：元々、HIPHOP も好きだったのですが、とある制作仕事から Cello a.k.a Massan という素晴らしいラッパーと昨年偶然に出会いました。彼の1MCと、自分の1ギターだけというアコースティック DUO「マッサンバシリー」を結成して活動もしています。

IK: 違う編成でしか生まれないアイデアもあって、そこで生まれたアイデアをボヘでもやってみたりという試みは、今回のアルバムでもやっています。

B: 逆に、ボヘで生まれたアイデアを違う編成のバンドに持っていく場合もありますよね。

IK: ボヘでやっているけどメロディとか曲の展開とかを大事にするから、そういうのを他のところに持っていくと、喜ばれたりもするんです。

曲作りはどのようにしているのですか？

IK: 基本的にはメロディとコードは僕と bashiry 君と2人で作るんですけど、楽曲のアレンジは毎回バンドメンバー全員で考えています。全員納得のいくアレンジができるまで突き詰めるので、どうしても1曲出来上がるのに3か月くらいかかっちゃいますね。

B: 思いついた時に書く(笑)。ギターでも作りますけど、だいたい鼻歌ですね。

愛用の楽器について教えてください。

B: ギターは2台だけです。2台しか持ってないんです(笑)。エレキの方はボヘを始めた頃から使っている「アイバニーズ」のギターです。高価なギターではないですが、死んだ師匠から頂いたもので大切にしています。アコギの方は「CREWS」というギターで、最近友達から奪い取りました(笑)。

IK: ライヴでは「NORD STAGE」という楽器を使っています。

ジャズと出会ったのはいつ頃ですか？

IK: 小学校から高校までお世話になった僕にクラシックピアノを教えてくれた先生がいるんですけども、その人の影響でチック・コリアとかハンコック、あと、父親の影響で本田竹広、キース・ジャレット、ビル・エヴァンスも聴いていましたね。

B: ジャズを好きになったきっかけはウェス・モンゴメリーでしたけど、僕は最初はベンチャーズでした(笑)。高校生までは弾き語りとかロックとかやって、大学入ってからはポートをやっていて寮生活が2年くらいあったので、演奏を一切やっていたんですけど、でも、やっぱり音楽がやりたいたいと思って横浜に戻ってきた時に、どこか音楽のあるところでバイトしようと思って「チェリオ」というジャズバーで働いたんです。たまたま同じ時期にイオリ君が筋向いのジャズバーでバイトしていたんですよ。でも、その時はお互いに出会うことはなかったんですけどね。

影響を受けたジャズ・アルバムを3枚挙げてもらえますか？

B: レッド・ガーランドの『レッド・ガーランド・ピアノ』。あれは凄く聴いてましたね。あと、シルヴァン・リユック&ピレリ・ラグレンの『デュエット』はCDウォークマンで持ち歩いていたので、買っては無くして全部で6枚くらい買いました(笑)。それと、ウェス・モンゴメリーの『インクレディブル・ジャズ・ギター』。3枚挙げるならこれですかね。

IK: まずは本田竹広の『サラーム・サラーム』です。2枚目はブルー・ミッチェルの『ブルース・ムード』。最近のものだと菱山正太さんの『チルドレン・オブ・ザ・サン』ですね。

普段聴いている音楽は何ですか？

IK: ハウス、アンビエント、ジャズは70'sの日本のジャズが好きだったり、それからロック全般ですね。

B: 最近でCDが欲しくて買いに行ったのは、バンドもののヒップホップのHocus PocusとかOthelloとか、あと、最近会った仲間で横浜のレゲエのシンガーの千尋さんや、同じくレゲエをルーツにした仙台のKGMさんが凄く気に入っていますね。ということで、ジャズのジャの字もないですけど(笑)。

音楽以外の趣味について聞かせて下さい。

IK: 人のイベントに行くのが好きですね。あと、本読むのも好きです。一番よく読むのは村上龍さんや筒井康隆さんですね。筒井康隆さんはジャズが凄く好きなんですけど、映画にもなった



『ジャズ大名』の原作(短編集『エロチック街道』に収録)は5000回くらい読みましたね。

B: 暇があると電車に乗ってますね。最近だと飯田線ですね(笑)。去年のお盆休みに(青春)18きっぷを買って、横浜から釧路に行ったんです。途中で青森のイオリ君の家に寄って、4日半くらいかかって野付半島まで行ったんですけど、あの景色には感動しました。そういえば先程言った「Todo Wara」という曲は野付半島のトド原をイメージした曲なんです。

今後やってみたいことはありますか？

IK: アルバムを出したので、普段行けない所を回りたいですね。アルバムだけじゃなくて演奏を見て欲しいという思いがあるので。**B:** 各地の野外ライブやフェスのライブをもっと出演したいですね、数年後には自分で野外イベントの企画なんかでもできる様になれたらいいですけどね。

最後にファンとThe Walker's 読者にメッセージをお願いします！

IK: ライナーに曲の解説が書いてあるんですけど、まずは読まずに聴いて、それぞれ自分の中で感じて欲しいですね。

B: 旅をコンセプトにしたアルバムなんで、自分が旅をしながらか聴いてみた時にいいなと思ったんで、ぜひボヘのアルバムを手にする機会があったら、車で聴いたり、旅の途中とかいろんなシチュエーションで聴いてみたい、いろんな楽しみ方をしてもらいたいですね。

bohemianvoodoo "SCENES" アルバム発売記念ライブ
2013.1.27 (Sun) @ JZ Brat
「SCENES」の収録曲はもちろん、
これまでの曲も盛りだくさんでお届けします！

【bohemianvoodoo official website】
<http://bohemianvoodoo.jp/>

bohemianvoodoo の2年振りの新作



SCENES
bohemianvoodoo

Playwright : PWT-002

¥2,500 (tax in)

2012年12月19日発売

【* P11にレビュー掲載!】